

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年9月18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101474		
法人名	株式会社 ハートピア		
事業所名	ケアホーム 日なた家	ユニット名	うめユニット
所在地	〒310-0841 茨城県水戸市酒門町1739		
自己評価作成日	平成26年1月31日	評価結果 市町村受理日	平成26年9月16日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870101474-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年3月18日	評価機関 決 済 日	平成26年9月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>中庭のある3ユニット平屋建ての構造を十分に生かした開放的な空間が入居されている方々のストレスを少なくし、穏やかに過ごすことが出来るようにしています。建物に限らず職員の日頃のケアについても、家族が傍に居るような雰囲気の中で温かく柔らかい接し方を心がけています。入居者様の家族の面会の際には、必ず職員から声をかけて近況報告をし、再度来ていただけるような雰囲気を作っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は水戸市街地の広大な敷地に3ユニットを平屋建てで建てられており、利用者はゆとりあるスペースの中でユニット間を行き来したり、趣味活動や作業活動をしたりしてゆったりと過ごしている。</p> <p>職員は定期的にマナー研修と個人情報保護に関する研修を行い、利用者の人格を尊重し、人生の先輩であることを意識した言葉かけや対応に努めている。</p> <p>各ユニットの居間兼食堂に小上がりの畳の部屋が設置されており、利用者が談笑したり洗濯物をたたんだりしたりする場として使用されている。</p> <p>居間兼食堂やユニット間の廊下には木製の腰掛けやテーブル、ソファを配置し、利用者が思い思いに寛ぐことができるようになっている。</p> <p>代表者は適宜事業所を訪れて職員とコミュニケーションを図るとともに、職員がスキルアップを図ってもらう1段階上の資格取得を目指せるように支援をしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	倫理綱領で「地域に開かれたものにする」とともに、利用者が地域社会の一員として生活することを支えます」と掲げ、それを基に職員は利用者と地域住民との関係が密になるよう努めている。	「住み慣れた町でふつうの生活を続けることができる」などの文言が入った地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成している。 職員は名札の裏に理念を携帯するとともに、年1回勉強会で理念を確認しながら共有し、利用者が安心と尊厳のある生活ができるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公園への散歩や買い物に出かけ地域との交流を行っている。また、避難訓練を行うに当たって、チラシを作成し家々に配るなど、積極的に参加を呼びかけている。	町内会に加入し、職員が廃品回収や隣の神社の枝払い作業に参加するほか、利用者の散歩時や買い物時に地域の人々と挨拶を交わしている。 大正琴や歌謡ショー、踊りなどの地域のボランティアが定期的に来訪するほか、小学生や中学生の施設見学や職場体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生のボランティア活動や中学生の職場体験を受け入れ、認知症への理解を促している。また、介護の相談に施設へ来所された方々に対し親身に対応するよう心掛けている。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回家族等の代表や地域の代表、有識者、市職員、施設職員が参加し開催している。外部の意見を参考にしながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、地域住民の代表、法人系列事業所の施設長で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の状況や事業所の活動報告等を行うとともに、課題であった避難訓練については、案内書を地域の方と一緒に配って参加を呼びかける案や感染症対策などについて意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課や高齢福祉課、生活福祉課と訪問や電話で連携を図り、利用者について様々な相談など情報交換を行っている。	市の介護保険課職員が運営推進会議に出席し、情報交換をするほか、高齢福祉課や生活福祉課とも訪問や電話などで運営やサービスの課題等について相談をするなど、連携を図りながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内全体での会議やユニット毎の会議などで話し合いを行い、身体拘束をしないケアへの意識作りと実践をしている。また、身体拘束防止に関するマニュアルを設け施設内研修を行い、施設外で研修がある際にも積極的に参加するようにしている。	身体拘束廃止に向けたマニュアルを作成し、定期的に会議等で研修を実施するとともに、「身体拘束ゼロへの取組み」のポスターを掲示して共有認識を図り、身体拘束をしないケアに努めている。 事業所は交通量の多い道路に面しているため、利用者の安全確保を図るために玄関を施錠しているが、重要事項説明書に明記するとともに契約時に家族等に説明して同意を得ている。 玄関以外の扉は開放し、中庭には自由に出入りができるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内全体での会議やユニット毎の会議などで話し合いを行い、利用者への虐待防止の意識作りをしている。また、虐待防止に関するマニュアルを設け施設内研修を行い、施設外で研修がある際にも積極的に参加するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	施設内全体での会議やユニット毎の会議などで話し合いを行い、権利擁護に関する知識を学んでいる。利用者に成年後見制度を利用している方がいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書類を家族に見てもらいながら、施設長または管理者が時間をかけて重要事項説明及び契約書の説明を行う。もし家族に不明な部分があった場合は理解して頂けるよう十分に説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に家族等からの意見や苦情等の相談受付窓口を明記している。また、面会時などでの家族からの意見に耳を傾け、ケアに反映させるよう心掛けている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記するとともに、玄関に意見箱を設置しているが、投函の実績はない。 職員は利用者からは日常のふれあいの中から、家族等からは面会時や家族会などで意見や要望を聴く機会を設けているが、率直な意見や要望を得るまでには至っていない。	率直な意見や要望が出し難い家族等に配慮し、無記名のアンケートを実施して結果を家族等に公開するとともに、職員で話し合うことを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内全体での会議やユニット毎の会議を月に1度行い、意見交換を行っている。普段の業務の中でもコミュニケーションを図り、意見を聞き出すよう努めている。	事務室内に職員用意見箱を設置するほか、管理者は毎月実施する全体会議やユニット毎の会議で意見や提案を聴く機会を設けている。 日常業務の中でも職員とコミュニケーションを図り、意見等を聞くよう努めている。 利用者の排泄に関する提案やレクリエーションの道具の購入、有給休暇や夜勤業務等について出た意見や提案等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を設け、職員がそれまでの自身の努力や実績を振り返ることが出来るようにしている。その際管理者が面談を行い、成果や今後の目標等について話し合う機会を設けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の段階に応じて研修の機会を提供している。研修者は研修受講報告書を作成し回覧している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同法人内のグループホーム他2施設の施設長及び計画作成担当者らによる合同会議を定期的に行っている。また地域密着型サービス協議会の会員にもなり定期的な交流をもっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所された当初は他利用者と上手くコミュニケーションが取れないため、職員の方から話し掛けを行ったり、間に入ることで他利用者と話す場を提供している。また、会話の中で利用者が施設でどのような生活を望んでいるのか等聞き出すよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者が施設で生活していく上で趣味や習慣等を伺うのはもちろん、家族が施設を利用するうえでどのような不安や要望を持っているか積極的に伺うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族等が求めている事柄に対し、施設が応えることができるか十分に見極め、話し合いを繰り返すことで家族や利用者本人が納得できる支援を行っている。状況によっては他のサービス事業者へ情報提供することもある。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の身の回りの事を職員が全て行わず、出来る範囲の事は利用者が応じた場合行って頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が訪問された時や電話で利用者の日頃の状況を報告するなど、利用者と家族との距離が離れないようコミュニケーションを図ると共に、利用者の好みや習慣を伺うなど、家族と共に利用者の生活を支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人・知人からの手紙や小包に対し、利用者の希望があればお礼の手紙や電話の支援を行っている。また、ドライブで利用者の馴染みの場所に行くよう心掛けている。	家族や親戚等の来訪のほか、利用者が昔から付き合いのある近所の人や短歌の友人、牧師さんの面会がある。 届いた手紙や小包に対し、利用者の希望があればお礼の手紙や電話の支援を行っている。 かつて度々行った千波湖や偕楽園など、馴染みの場所へのドライブや家族等の協力を得て墓参りに出かけたり、自宅に外泊ができるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話など、様子を常に気に掛け良好な関係が維持できるように努めると共に、孤立することがないようにレクリエーションなどコミュニケーションのとれる場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了となっても今までの生活の様子などをいつまでも話せるように個人記録を残しておく。また、終了後の連絡にも快く応じ家族等が話しやすいようにしておく。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者からの訴えだけでなく、利用者の思いが把握が難しい時でも利用者の表情や行動を観察しながら今何を望んでいるのか職員で話し合い検討しながら支援している。	職員は利用者の思いや意向をサービス開始時のアセスメントのほか、日々の関わりの中で把握し、職員連絡ノートに記載するとともに、ユニット会議等で話し合っ共有している。 把握が困難な利用者の場合でも思いや希望にそった生活ができるよう、家族等の面会時に意見等を聞き、利用者本位に支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は利用者のこれまでの暮らしを必要であれば家族やご本人から話を聞き、把握する。情報を基に職員で話し合い検討しながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者の日々の生活の中で、状態の変化を捉え、季節に合わせた一人一人の過ごし方や心身状態を把握しながら支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	半年に一度介護計画の見直しをしている。日々の変化を職員との密な情報交換で得て、見直しの際にはユニット内での話し合いにより向上するよう努めている。	介護計画は職員と計画作成担当者がユニット会議で話し合っ作成しているが、必ずしも利用者や家族等の参加や意見が取り入れられたものとはいえない。 6ヶ月毎にモニタリングを行い、介護計画の見直しをしているが、全利用者のモニタリングを行うまでには至っていない。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は随時現状に即した介護計画に見直している。	介護計画の作成は利用者や家族等の参加や意見が取り入れられたものとなるように作成するとともに、モニタリングは必ず全利用者を実施することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議時に個人記録を元にケアの支援について話し合いそれぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。会議以外でもその都度、変化に応じてケアの方針を考え、ユニットの連絡帳へ記載し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外の受診時は基本的には家族の付き添いとなるが、どうしても家族が都合の付かない場合は職員が通院介助している。利用者の「食事を部屋で食べたい」「お粥が食べたい」「朝食で梅干を食べたい」等、要望に耳を傾けながら個別に支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園や図書館、スーパーの場所を把握し利用者も活用できるよう支援している。出張理美容もあるが近所の美容院に行くこともできる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に今後の主治医について話し合い、近隣以外のかかりつけ医を希望する時は家族等の協力を得ながら受診するとともに受診結果を職員で共有している。	契約時に利用者や家族等からかかりつけ医の意向を確認しているが、ほとんどの利用者が協力医療機関の医師をかかりつけ医としている。 今までのかかりつけ医を受診する場合は家族等に対応してもらうことを基本とし、協力医療機関の受診は職員が支援をしている。 受診結果は受診記録に記載して職員で共有するとともに、家族等へは電話や手紙で報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、利用者の急変や体調変化など訪問看護に伝えアドバイスや看護を受けられる体制になっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院が決まった時にはかかりつけの医師と相談したり入院先の医療関係スタッフに連絡したりしている。退院時も事前に連絡を取り合いスムーズに退院できるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期介護に関する指針を作成し利用契約時に利用者や家族等に説明するとともに同意を得ている。重度化した場合は主治医や家族、職員で今後の方針を話し合っている。	重度化や終末期介護に関する指針を作成し、契約時に事業所でできることとできないことを説明して利用者や家族等に同意を得ている。 過去に7例の看取りを経験しており、利用者が重度化した場合は家族等や医療関係者、職員等で状況変化に応じて段階的に合意に向けた取り組みをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議で緊急時対応を学び、いつでも確認できるようマニュアルを作成し実践している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。避難経路は明確で夜間を想定した訓練を実施している。地域住民に協力が得られるよう日頃からの付き合いを大切にしている。	消防署や消防設備会社の協力を得て避難訓練を年2回実施するとともに、内1回は夜間を想定した訓練を行っているが、訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。 訓練後は実施報告書を作成し、反省点や課題を職員会議で話し合い、次回の訓練に活かすようにしている。 災害に備えてレトルト食品や缶詰、飲料水、懐中電灯などの防災用品を備蓄しているが、備蓄品リストを作成して管理するまでに至っていない。	近隣住民やボランティアの参加が得られるよう運営推進会議等で働きかけることを期待する。 備蓄品リストを作成して定期的に点検することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者に自然な言葉かけで接するとともに、利用者への尊厳を大切にしている。利用者の個人の記録等は容易に外部の者が見ることが出来ないよう、キャビネットに保管している。	職員は定期的にマナー研修と個人情報保護に関する研修を行い、利用者の人格を尊重し、人生の先輩であることを意識した言葉かけや対応に努めている。個人情報の書類等は事務室の鍵のかかるキャビネットに保管して管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志を確認するために質問する接し方をしている。選択肢を設けて分かりやすく答えやすくすることもある。表現が難しい利用者に対しても表情や行動から察し、利用者の意向に沿えるようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者の話を聞き、一日を自由に過ごせるよう支援している。利用者の体調に合わせ無理のない支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に季節に合った服装を選び季節感を味わってもらっている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は食材を説明しながら配膳している。食事は必ず利用者と一緒にとりコミュニケーションをとる。後片付けも利用者と一緒に行う。	食材配達業者の献立により食材が届くが、職員は利用者の好物や苦手なものを把握しており、配慮をしている。利用者はできる範囲でテーブル拭きや下膳、食器拭きなどの役割を担っている。職員は利用者と同じテーブルに着き、会話をしながら食事が楽しくなるよう支援している。敬老会やクリスマス会などの行事食や外食、誕生会のケーキも利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量や食事摂取量を記録する事で体調のすぐれない利用者は主治医から適切な水分量などの指示を受けて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとり声を掛け歯磨きや入れ歯洗浄剤、イソジン液を薄めたうがいを行う事で清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンのチェック表を作成して介助を必要とする利用者の自立に向けた支援を行う。	職員は排泄チェック表を基に利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、利用者の状態や体調に配慮してタイミングを見計らいながら声かけや誘導をし、トイレで排泄ができるよう支援をしている。夜間もトイレ誘導をしたり、居室にポータブルトイレを配置したりして排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行い、必要に応じて主治医に下剤を処方してもらおう。また、運動や食事量、水分量を一人ひとりの排便リズムに合わせて考えている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望により週2回、3回入浴できる体制をとると共に夕方入浴も支援している。入浴は時間を気にせず利用者のくつろげる場とし、コミュニケーションをとる大事な場になると考えている。	週2回から3回午後に入浴ができるよう支援しているが、利用者の希望により夕方の入浴も支援している。 一番風呂や浴槽内の湯量の希望を聴いたり、利用者の好みの石鹸やシャンプーが使用できるように配慮している。 入浴を好まない利用者には時間をずらしたり、職員を替えて声かけをしたりして支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員は利用者一人ひとりの体力や生活習慣、状況をつぶさに確認し、休息したり安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが通院している医療機関の処方箋(薬の説明書き)を保管していつでも確認できるようにしたり、通院記録に記載したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は利用者の生活歴を把握し、それをふまえた上でレクリエーションや家事において特技を活かせるよう支援を心がけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望によりドライブや散歩がてら買い物へ出かけたり公園内の図書館へ出かけたりしている。	日常的には中庭での外気浴や周辺への散歩、買い物、図書館などへの外出を支援している。 年間計画を立て、花見や春と秋の遠足、林檎狩り、芋掘り、同一法人系列の事業所で催される夏祭りや演芸大会などに外出することも利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者については所持を容認しているので買い物などは本人所持のお金を使っている。本人所持が難しい場合でも事務所預かりのお金があり、いつでも使えることを伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの手紙や電話があった場合、やりとりができるよう支援している。利用者の中には携帯電話を所持している方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は広く正面ホールも中庭が見渡せ開放感があり陽光はカーテンで調整している。各ユニットでは展示物などの工夫をしている。また、健康面や不快感を考慮し、エアコンや加湿器の調節を細かく行っている。	共用空間は陽光をカーテンで調整するほか、エアコンや加湿器で温度と湿度を調節して快適に保っている。 各ユニットの居間兼食堂には小上がりの畳の部屋が設置されており、利用者同士で会話をしたり、洗濯物をたたんだりするスペースとして使用されている。 居間兼食堂やユニット間の廊下には木製の腰掛けやテーブル、ソファを配置し、利用者が思い思いに寛ぐことができるようになっている。 壁面には利用者と職員で制作した季節の作品や絵画、短歌、写真などを飾り、利用者が快適な環境の中で居心地よく過ごせるように配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットにテーブルや畳で過ごせる共有スペースがあり、利用者の気持ちで集まることができる。そこに集まるとお茶を提供することも多い。また、ひとりになりたいときにも自由がきくように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室畳敷きで利用者が思い思いの寝具を持ち込む。利用者は使い慣れたタンスや仏壇などを置き家庭に近い環境の中で落ちついた生活をしている。	居室は全室畳敷きで、エアコンや洗面台、カーテンが備え付けられている。利用者は家族等と相談して使い慣れたベッドや寝具、箆笥、炬燵、テレビ、テーブル、籐椅子、衣装ケースなどを持ち込むとともに、写真や絵、カレンダー、手作りの作品、小物などを飾り、居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの習慣や好み、できる力を見極め「できること」をできるようにしている。例としてはエアコンのリモコン管理や居室の鍵の所持である。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 ケアホーム日なた家

作成日 平成26年9月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回避難訓練を実施しているが訓練に近隣住民の参加を得るまでに至っていない。	訓練に地域住民が参加出来るようになり施設の体制を理解してもらえるようになる。	訓練に地域住民が参加できるよう開かれた施設づくりを目指す。避難訓練開催前に案内を配布し参加を依頼する。	外部評価10日後の訓練には地域住民参加した。今後も継続する。
2	35	災害に備えてレトルト食品や缶詰、飲料など備蓄品リストを作成する必要がある。	災害に備えた備蓄の管理体制を整える。	災害用備蓄品のリストを作成し在庫や賞味期限管理を徹底する。そして定期的に点検する。	今年度中
3	26	介護計画に利用者や家族の意見が取り入れられていない。又、全利用者のモニタリングを行うまでにいたっていない。	介護計画作成にあたる手順が全利用者に実施出来る様体制を整える。	フローチャートを作成し手順を再確認し計画作成担当者がきちんと実施できるようにする。	今年度中
4	10	家族の率直な意見や要望を得ることが出来ていない。	家族の率直な意見や要望を得る体制を整える。	無記名アンケートを実施する。実施する前にはアンケート内容を全職員へ通知し共通理解を行う。	今年度中
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。